

6 考えをまとめることが苦手な子どもへの手立ての例

A 要因として、継次処理が苦手なケース

話したことをカードに書いていき並べ替えて、話を組み立てる練習をする。

「誰が」「いつ」「どこで」等の5W1Hを1問1答でやりとりし、再度まとめる。

簡単な物語文を使って、お話を順々にまとめて（あらすじ・要約）話させる。

B 要因として、視覚認知や空間認知の弱さがあり、補助手段が必要なケース

、 、 などのカードを使って、仲間分けや、カードを合わせて形を作るゲームなどをする。

鍛えたい目的に合わせて、縦方向、横方向など視線を動かすトレーニングを、遊びを通じて楽しみながら行う。

弱さを補うものとして、色やサインカード等の補助手段を、その子に合わせて考える。

C 要因として、根気が続かないケース

まとめるまで集中して考えることが続かない。うまくまとまらないことにイライラし投げ出してしまう。

まとめる課題をごく簡単なものからスモール・ステップで与えていく。

「できたね」等、評価をこまめにする。